

令和元度静岡大学 事務系職員グローバル化研修 (海外派遣研修(企画型))報告書

研修期間：令和元年9月1日(日)～9月8日(日)

研修先：ハンガリー(ブダペスト)、ドイツ(フライブルク)

研修者：大泉 秀樹 (広報室広報係長)

遠藤 紀仁 (調達管理課第二係主任)

藪崎 明日香 (教育学部総務係)



はじめに

研修の目的

異文化を体験し、並びに研修等で習得した語学力を用いて海外の大学運営及び教育体制を理解するとともに、さらなる異文化理解、語学力向上等に努める意志の形成を図る。

研修の目標

- ① 訪問機関の事前調査、選定、アポイントメント等を行い、研修場所及び日程を決定する。
- ② 訪問機関に事前に質問事項等を送付し、訪問内容を明確にする。
- ③ 研修場所（渡航先）の国（都市）における日本（静岡県）及び日本人（留学生）の状況について、理解を深める。
- ④ インターアカデミア2019を見学し、国際学会の運営、プログラムの内容、本学研究者等について、理解を深める。
- ⑤ 協定校を訪問し、質疑応答により海外の大学運営及び教育体制について、理解を深める。
- ⑥ 名古屋大学の欧州拠点を訪れ、質疑応答により他大学の海外拠点の運営等について、情報収集する。
- ⑦ ドイツに滞在する日本人留学生と懇談し、留学事情及び今後のキャリアデザイン等について、情報収集する。



日程

日付	訪問先
2019/9/1	中部国際空港 → リスト・フェレンツ国際空港（ブダペスト）
2019/9/2	在ハンガリー日本国大使館 Embassy of Japan in Hungary
2019/9/2	独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）ブダペスト事務所 Japan External Trade Organization(JETRO)Budapest Office
2019/9/3	ブダペスト工科経済大学 Budapesti Műszaki és Gazdaságtudományi Egyetem、BME
2019/9/4	オブダ大学 Óbudai Egyetem
2019/9/4-5	Inter Academia 2019
2019/9/5	リスト・フェレンツ国際空港 → フランクフルト国際空港
2019/9/6	名古屋大学ヨーロッパセンター Nagoya University European Center
2019/9/6	留学生との懇談会 Meeting with international students from Japan
2019/9/7-8	フランクフルト国際空港 → 中部国際空港

ハンガリーの概要について①

国号：ハンガリー

面積：約9.3万平方キロメートル（日本の約4分の1）

人口：約980万人（2018年1月，中央統計局）

首都：ブダペスト

言語：ハンガリー語（マジャール語）

宗教：カトリック約39%，カルヴァン派約12%

通貨：フォリント（1フォリント=0.37円（2019年7月31日））

主要産業：機械工業，化学・製薬工業，農業，畜産業

在留邦人数：1,691名（2018年10月）

ハンガリー進出日系企業数：156社（2017年）



民主化（東欧革命）：1989年

NATO：1999年加盟

EU：2004年加盟

シェンゲン協定：2007年加入

日本との主な交流

日本ハンガリー友好協会設立（1971年設立）

ハンガリー政府と日本企業との戦略的協力協定

*マジャールスズキをはじめとする6社と締結

出所：JETROブダペスト事務所作成資料、
外務省ホームページ等



ハンガリーの概要について②

教育システム

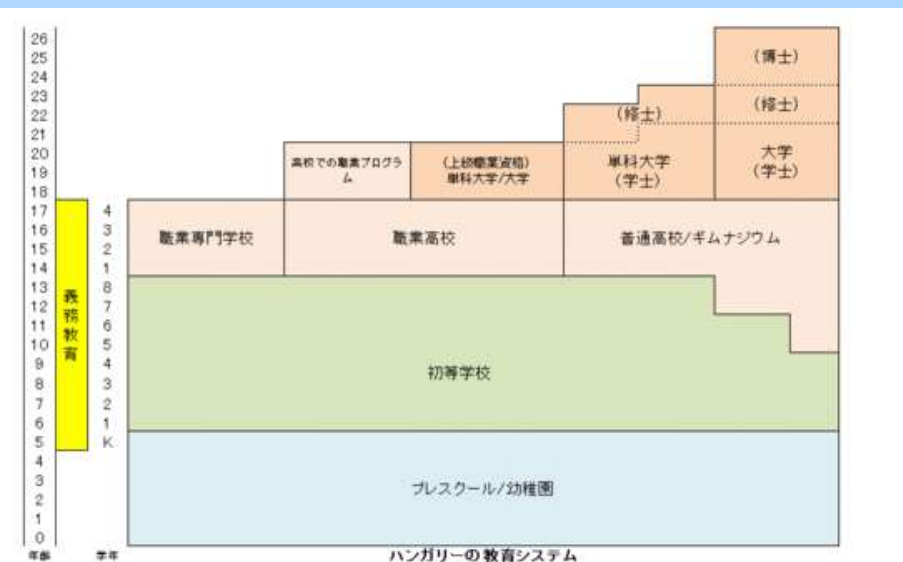
義務教育の学費は無償である。

大学（学部）は3～4年制、修士課程は1～2年制、博士課程は4年制となっている。

2学期制であり、1学期は9月～1月末、2学期は1月末～6月となっている。

国家の認定を受けた高等教育機関（HEI）（大学、単科大学等）が65校存在する。

留学生プログラムを提供している高等教育機関の数は44、外国語プログラムの数は1,300で、そのほとんどは英語で授業が行われている。欧州各国からを中心に留学生が多く滞在している。



Reference: OECD. Diagram of Education System, Education GPS: Hungary.
<http://gpseducation.oecd.org/CountryProfile?primaryCountry=HUN&threshold=10&topic=EO>

奨学金

ハンガリー留学のため、以下のようなハンガリー政府奨学金（給付型）が存在する。

- ハンガリー政府奨学金（夏期コース）
- ハンガリー政府奨学金（ハンガリー語・文化）
- ハンガリー政府奨学金（研究）
- ハンガリー政府Stipendium Hungaricum奨学金

出所：



(JASSO)

ハンガリーの概要について③

治安・衛生

ハンガリーは、他の欧州各国と比べて、大規模テロ、暴動、クーデター等が発生する危険性は相対的に低い一方で、一般犯罪の被害に遭う可能性は比較的高い。すりや置引等に注意が必要。

水は衛生的であるが、飲み水についてはミネラルウォーターを購入した方が良い。炭酸入のものも多いため、購入時には確認が必要。（炭酸なしはstill water）

難民については、受け入れを制限しているため、街中で見かけることはなかった。

公共交通機関

ブダペスト市内にはBKKブダペスト交通センターが管理する地下鉄4路線、バス220系統、トロリーバス13系統、路面電車25系統があり、共通の乗車券で乗車可能。24時間乗車券（1,650フォリント/およそ600円）があり、今回の研修では主にこちらを使用した。

停車場等にある券売機にて購入可能。（硬貨、小額紙幣、カード等）改札はなく、キセル等が発覚した場合、多額の罰金が科せられる。

気候

気候は気温の上からは大陸性気候で、平均気温21.8度。私たちが着いたときは季節はずれの猛暑で30度を超えていた。

出所：駐日ハンガリー大使館観光室



路面電車の停車場にある券売機

在ハンガリー日本国大使館(2019/9/2)

所在地

1125 Budapest Zalai út 7. Hungary
最寄駅：Széll Kálmán tér（セールカールマン広場駅）
ハンガリー中心部（エリザベート公園）から、公共交通機関で30分程度。



セール
カールマン
広場駅

組織概要と役割

ハンガリー政府との交渉や連絡、政治・経済その他の情報の収集・分析、日本を正しく理解してもらうための広報文化活動などを行っている。

邦人の生命・財産を保護することも重要な任務のひとつ。

日本人留学生に関する事項としては、在留届の提出、パスポート紛失等の手続き、トラブル時の支援等があげられる。

また、日本への留学を希望する者への情報提供、国費留学生大使館推薦の実施等も行っている。

今回は、政務・広報文化班 中井杏奈さんに対応いただいた。

在ハンガリー日本国大使館
*大使館内部は撮影禁止

在ハンガリー日本国大使館(2019/9/2)

留学生の現状

日本人留学生について、医学部や音楽関係の学部への留学が多いが、近年、医学部への留学が伸びている。

ハンガリー政府としては、経済関係の学部への留学生を増やそうと広報をしているが、なかなか増えていない。

ハンガリーでは留学生の就労が厳しく制限されており、日本からの仕送りや奨学金等による支援が必要。

日本の大学では大阪大学（旧大阪外大）にハンガリー語学科があり、交流が深い。



ハンガリーの国立大学医学部
ハンガリー医科大学事務局が新宿にある



ブダペスト中央市場
ブダペスト市民の台所、観光客も多い

留学先としての魅力

EUの中では生活費が比較的安く、治安もよい。

英語による留学生プログラムを実施している大学も多く、教育の質も高い。

ハンガリー人も、第二言語として英語を学んでいるため、日本人でも聞き取りやすい英語を話すひとが多い。英語を学ぶ環境としてもよいのではないか。

JETROブダペスト事務所 (2019/9/2)

所在地

1051, Budapest, Bajcsy-Zsilinszky út 12, HUNGARY
最寄駅：Kálvin tér (カールヴィン広場駅)
ハンガリー中心部 (エリザベート公園) から、徒歩5分

概要

日本貿易振興機構の海外事務所のひとつ。

日系企業への情報提供や各種イベントの実施、経済統計調査を行い、貿易の拡大と経済協力促進活動等を行っている。

マジャールスズキ等が所属する在ハンガリー日本商工会とも協力関係にある。

事務局の構成

所長：奥村明子

事務職員：現地職員4名(ハンガリー人3名、日本人1名)

*日本からの派遣は所長のみ

JETROホームページより、一般経済事情について、1時間程度の説明が受けられる海外ブリーフィングサービスに申込み、奥村所長に対応いただいた。

エリザベート
公園



JETROブダペスト事務所が入居しているビル

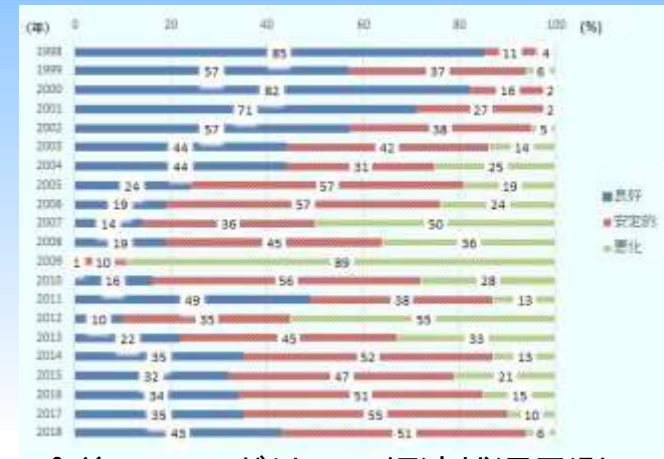
JETROブダペスト事務所 (2019/9/2)

ハンガリーについて

日本企業が古くから進出し、関係が深い。
2018年の経済成長率が4.94%であり、今後のハンガリーの経済状況と期待について、94%の企業がハンガリーの経済状況予測を良好もしくは安定的と答えている等、景気が良い。

しかしながら、移民政策において受け入れを制限しているため、人手不足の状況にある。

今後、イギリスのEU離脱に関連して、ヨーロッパ大陸の中での拠点性や、物価の安さ等により、地の利を生かし、イギリス+αの拠点となるのではないかと考えている。



今後のハンガリーの経済状況予測
出所:在ハンガリー・ドイツ商工会議所



マジヤールスズキの工場
ブダペスト近郊のエステルゴムにある

日本企業の現状

162社の日本企業がハンガリーに進出している。
特に存在感があるのが、1992年に進出したスズキの子会社であるマジヤールスズキ。また、スズキに関連する自動車関連の工場も進出している。

今後は、電気自動車等に関する投資も増えるのではないかと考えている。

また、マジヤールスズキがブダペスト工科大学と協定を結んでいるところであるが、古河電工も、ブダペスト工科大学等と協力体制にある。

JETROブダペスト事務所 (2019/9/2)

現在の取組

現在、日本茶を売りたいと考えている。ハンガリーだけでは、マーケットが大きくないことから、ウィーン事務所を中心に、中東欧に声をかけている。

静岡県内の企業も含め、20社以上と協力している。

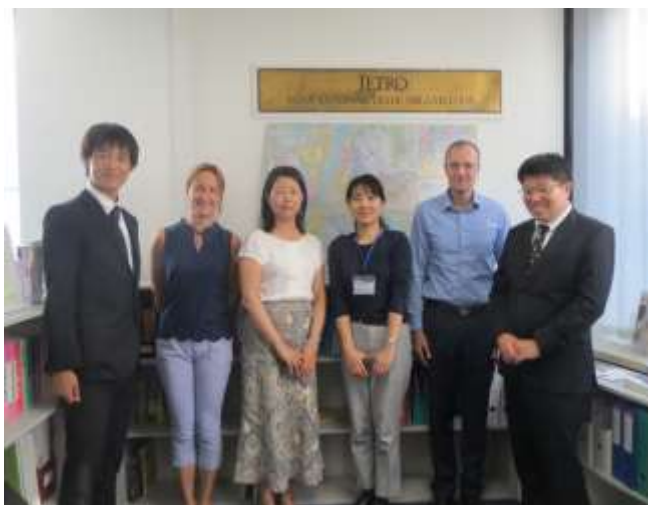


大学に求めるもの

日本人学生の留学マインドの醸成、キャリア形成に取り組んで欲しい。若い人の内向き指向をなんとかする必要がある。現状、なかなか、中小企業において、英語人材を育てる余裕がない。

また、社会人向けに海外進出に必要な、最新の情報教育・イノベーション教育のプログラムを実施して欲しい。大学と企業をつながり、特に、若い人材にアカデミックな知識をつけてもらうことが重要とのことであった。

静岡大学には情報学部があり、社会人学び直しプログラムも実施しているため、これらの活動に力を入れる必要があると感じた。



写真中央左：奥村所長
JETROブダペスト事務所内

HEPT

制御系組込み
システムアーキテクト養成プログラム

ブダペスト工科経済大学(2019/9/3)

所在地

1111 Budapest, Műgyetem rkp., HUNGARY
トラム駅：Szent Gellért tér-Műgyetem Mから徒歩3分

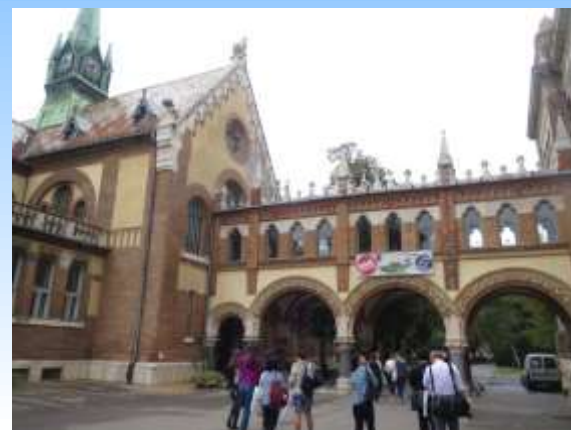
概要

1782年 創立
2000年、静岡大学と大学間協定を締結

学部（8学部）

土木工学部、機械工学部、建築学部、化学生物工学部、
電気工学情報学部、交通工学部、理学部、経済社会学部

学生数：約23,000人



ブダペスト工科経済大学(2019/9/3)

スズキ財団助成金説明会

スズキ財団助成金説明会を見学

説明者 スズキ財団：守田義郎 専務理事、山田瑞枝
静岡大学：川田善正 工学部長、松田紀子 教授

ブダペスト工科経済大学の日本への留学を検討している学生に対し、川田工学部長から、静岡大学工学部の概要説明、スズキ財団から、ブダペスト工科経済大学から静岡大学工学部への研究留学を支援する助成金（奨学金）の概要説明があった。



川田工学部長の説明



スズキ財団 守田専務理事の説明



ブダペスト工科経済大学(2019/9/3)

質疑応答

対応者：ブダペスト工科経済大学 Adrienn Fuzesi
国際関係の担当者との質疑応答により海外の大学運営
及び教育体制について、理解を深めた。



大学運営・教育体制について

大学収益について、運営費交付金は全体の半分程度であり、企業からの多くのリサーチプロジェクトを受け入れている。

また、教育体制については、本学と同じように授業料免除制度、長期履修制度を実施している。博士課程に関しては、社会人学生も多いため、複数回に分けて通えるような、社会及び学生のニーズに応える制度も実施している。

学生支援として、就職サポートの一環でキャリア教育授業及びインターシップを実施し、さらに、Webサイトやfacebook等を活用した就職情報の公開を実施しており、充実したサービスの提供が伺えた。

なお、大学運営を検討する理事会は、構成員の20%は学生の代表者が入り、学生の声が届けやすい体制であることが印象的であった。

オブダ大学 (2019/9/4)

所在地

Óbudai Egyetem
1034 Budapest, Bécsi út 96/B, HUNGARY
トラム駅：Katinyi mártírok parkjaから徒歩3分

概要



2000年 創立 3つの工科大学を統合し、
総合大学として創立
2012年、静岡大学と大学間協定を締結

2018年9月から2019年6月まで静岡大学生1名が
短期留学している

学部 (6学部)

機械工学・防犯技術学部、電子工学部、経営学部、
情報学部、軽工業環境工学部、交通情報テレマティクス研究センター

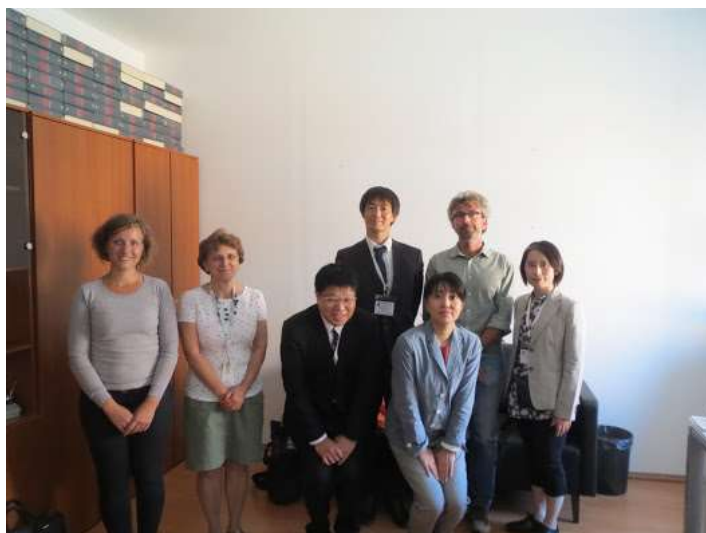
学生数：約12,000人



オブダ大学 (2019/9/4)

質疑応答

対応者：オブダ大学 Veres Erizsebet
国際関係の担当者との質疑応答により海外の大学運営及び教育体制等について、理解を深めた。



オブダ大学の国際関係部署のみなさま

国際関係について

留学に関する教育体制について、オブダ大学としては、留学生獲得や在学生の留学機会の増加を希望しているが、目標としている人数には達していない現状がある。

特に留学生を受け入れる際、英語学習等の改善を図る余地がある。

したがって、静岡大学の留学生受入れに興味がある様子が伺えた。

また、国際関係部署の人事異動については、国際の業務は専門職であることから、異動については業務内容が近いプログラムについてのみ可能となることがわかった。

Inter Academia 2019 (2019/9/4-5)

目的

Inter Academia 2019 見学
会議主催大学（当番大学）：オブダ大学
インターアカデミア2019を見学し、国際
学会の運営、プログラムの内容等につい
て、理解を深めた。
また、本学の教員（研究者）等の発表を記
録した。



会場となった
ダヌビウス ホテル ゲッレールト
Danubius Hotel Gellért

インターアカデミアについて



Inter Academia 2019の様子

本学は、中東欧の協定大学（ウクライナ、スロバキア、ドイツ、チェコ、ハンガリー、ブルガリア、ベラルーシ、ポーランド、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ロシア）との間で工学分野を中心に研究、留学生受入れ、博士課程の教育等に関して交流を積み重ねてきている。

その中で2002年以来毎年開催しているInter-Academiaと名づけた国際会議を交流活動の基盤と位置づけている。

今回のインターアカデミア2019ハンガリーブダペストは18回目にあたり、9月4日から7日までの4日間で60件以上の研究発表及びポスター発表があり、本学からも多くの教員及び学生が参加し、研究発表を通して交流の促進を図った。

Inter Academia 2019 (2019/9/4-5)

報告

9か国の大学から51名が集まり、本学からは木村雅和 理事、原和彦 創造科学技術大学院長、三村秀典 電子工学研究所長をはじめ25名の教職員と大学院生が参加した。

開会式では、今年度議長のオブダ大学 Annamária R. Várkonyi-Kóczy 教授の進行により、同大学のLevente Kovács学長より挨拶があった。



木村理事、原教授ほか、来賓としてご臨席いただいた公益財団法人スズキ財団専務理事守田義郎様から挨拶があった。



Inter Academia 2019 (2019/9/4-5)

研究発表

近藤淳教授による招待講演をはじめとし、31件の一般口頭発表、大学院生を中心とした若手研究者による10件のショートプレゼンテーション、若手を含めた23件のポスターによる研究発表が行われた。



村上教授の研究発表の様子



若手研究者のポスター発表の様子



Walking tour – the Lights of Budapest

夜はナイトウォーキングのプログラムが用意されており、昼間の緊張感のある研究発表から一転して、和やかな雰囲気の中でブダペストの美しい夜景を堪能しつつ参加者の交流を楽しむ様子が印象的だった。

文化研修 ～ブダペスト編～

昼



くさり橋



国会議事堂



王宮

文化研修 ～ブダペスト編～

夜



くさり橋



国会議事堂



王宮

ドイツの概要について①

国号：ドイツ連邦共和国

面積：約35.7万平方キロメートル（日本の約94%）

人口：約8,302万人（2018年12月，独連邦統計庁）

首都：ベルリン

言語：ドイツ語

宗教：カトリック約30%，プロテスタント約29% 他

通貨：ユーロ（1ユーロ：117.12円 2019年10月現在）

主要産業：自動車、機械、化学、制約、電子、食品、建設、
光学、医療技術等 世界有数の先進工業国かつ貿易
大国

在留邦人数：45,784名（2018年10月）

東西統一：1990年10月

NATO：1955年加盟

EU：1952年加盟（当初西ドイツのみ）

シェンゲン協定：1985年加入（当初西ドイツのみ）

日本との主な交流：日独・日欧の知的交流拠点である「ベルリン日独センター」，主に日本文化の紹介事業等を行う「ケルン日本文化会館」がある。日独協会，独日協会，日独友好議員連盟等を締結している。

出所：外務省ホームページ等



ドイツの概要について②

教育システム

就学前教育：幼稚園は満3歳からの子どもを受け入れる機関であり、保育所は2歳以下の子どもを受け入れている。

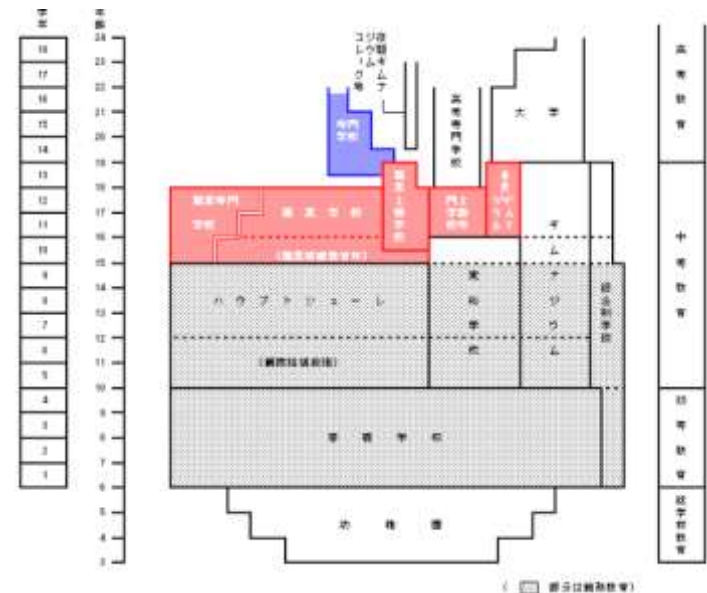
義務教育：義務教育は9年（一部の州は10年）である。また、義務教育を終えた後に就職し、見習いとして職業訓練を受ける者は、通常3年間、週に1～2日職業学校に通うことが義務とされている（職業学校就学義務）。

初等教育：初等教育は、基礎学校において4年間（一部の州は6年間）行われる。

中等教育：生徒の能力・適性に応じて、ハウプトシューレ（卒業後に就職して職業訓練を受ける者が主として進む。5年制）、実科学校（卒業後に職業教育学校に進む者や中級の職につく者が主として進む。6年制）、ギムナジウム（大学進学希望者が主として進む。9年制）が設けられている。

高等教育：高等教育機関として、大学（総合大学、教育大学、神学大学、芸術大学など）と高等専門学校がある。修了にあたって標準とされる修業年限は、通常、大学で4年半、高等専門学校で4年以下とされているが、これを超えて在学する者が多い。

出典：文部科学省HP



名古屋大学ヨーロッパセンター（2019/9/6）

視察の意義

静岡大学は、ヨーロッパ拠点がなく、日本の他大学のヨーロッパ拠点を視察することは、今回の“企画型”研修の大きな目的の一つでもあった。

今回の訪問は、ヨーロッパ拠点を知る絶好の機会となり、特にヨーロッパから見れば極東の島国である日本の大学との関係について、さらに、研究支援・学生支援・広報活動等について、担当者との情報交換をすることにより、ヨーロッパ拠点の役割及び意義等を知ることができた。

訪問機関の決定



日本学術振興会（JSPS）ボン研究連絡センターのウェブサイトより、日本の大学の在ヨーロッパ拠点をチェック

<https://www.jspss-bonn.de/ja/links/in-europe/>

【視察候補】

- 1 名古屋大学 フライブルク ヨーロッパセンター
- 2 千葉大学 ベルリン オフィス
- 3 筑波大学 ボン 事務所
- 4 京都大学 ハイデルベルク オフィス

- 国立大学を条件に絞り込み、同じ東海地区の名古屋大学を第一候補とし、訪問が実現した。

名古屋大学ヨーロッパセンター (2019/9/6)

所在地

Milchstrasse 3/3a, 79098 Freiburg i.Br., Germany

最寄駅：Freiburg (Breisgau)から徒歩6分



概要

フライブルク大学の協力により、2010年4月1日に設立
ヨーロッパにおける名古屋大学の存在をアピールし、研究、教育、国際交流を支援する海外拠点として機能している。

職員 3人

センター長 土井康裕 (名古屋大学教授)

マネージャー ローランド・ベルケマイヤー (フライブルク大学 博士課程学生)

アシスタント 伊東麻衣 (フライブルク大学 博士課程学生)

業務

- ・教育、研究、国際交流に関する情報提供
- ・名古屋大学での留学プログラムの促進
- ・企業や大学とのコーポレーション強化のための活動支援
- ・セミナー、シンポジウム及びイベントの企画
- ・国際共同研究、国際学術交流の促進
- ・ヨーロッパで学ぶ日本人学生支援
- ・同窓会ネットワークの構築
- etc



名古屋大学ヨーロッパセンター (2019/9/6)

パートナーシップ

名古屋大学とフライブルク大学のパートナーシップにより

- ・ 事務職員の交流は、スタッフ交換研修、語学研修を年に2, 3回実施し、期間は1, 2週間程度
- ・ 研究支援として、名古屋大学の教員が頻繁に訪れている
- ・ 学生支援として、フライブルク大学から日本の大学へ留学を希望するドイツ人に対して、オリエンテーション等を実施
- ・ ドイツに留学してきた名古屋大学の学生の支援も行っている



写真左から：伊東さん、
ベルケマイヤーさん



オフィス見学
充実した設備と広々と
したスペース
居心地の良いオフィス
環境



日本人学生との懇談会 (2019/9/6)

ドイツの滞在は1日と短かったが、思い出深いものに。

卒業生との出会い

藪崎係員が農学部学務係職員の時に対応した卒業生が、ドイツ・フライブルク大学修士課程に在席していたため、今回の名古屋大学のオフィス見学及び大学案内役をしていただいた。



フライブルク大学大学院在席 河野翔さんと藪崎係員

日本人学生との交流

フライブルク大学に在籍している3名の日本人学生とともに、懇談会をした。留学までの道のり、現在及び将来の夢、家族や友達のことなどさまざまなお話を伺いました。自らアウェイに乗り込み、自分の夢のために必死で努力している姿はとても好感が持てた。



フライブルク大学大学院在籍学生と遠藤主任

文化研修 ～ドイツ編～

静岡大学のヨーロッパ拠点に…

ドイツには欧州各国の国境があり、電車（新幹線のようなもの）で30分、スイスのバーゼルまで行くことができた。

もう少し足を伸ばせば、ドイツ・スイス・フランスの3国の国境まで行くことができる。そんなドイツを是非、静岡大学のヨーロッパ拠点にされてはいかが。



ライン川



スイス バーゼルのミュンスター（大聖堂）



バーゼル駅構内

感想

《大泉 秀樹》

自分自身、業務での海外出張は初、海外渡航は約10年ぶりだったため、スマホの普及により、リアルタイムの情報を得ることができ、隔世の感があった。

さらにアプリを活用することにより、研修者間での情報共有や事前の情報収集に関しても容易になり、準備段階から非常に貴重な経験になった。

企画型の研修であることから、渡航目的、渡航先を自分たちで決めることができたのだが、国際学会への興味が高かったこともあり、静岡大学がインターアカデミアを主催していることは、非常に幸運だった。

《遠藤 紀仁》

これまで、日本で開催する国際シンポジウムの事務等に関わったことや、ABP学生の公募のためベトナムに出張したことはあったが、このように英語が主言語とされる国において、英語を用いてコミュニケーションをとったり、事務職員だけで移動したりといったことがなかったため、国際交流センターの松田先生や他の研修者、現地の静大出身学生等に助けられながらではあったが、とてもよい経験になった。

この経験において、ほんの少しではあるが、外国の中で生活する留学生の苦勞の一端を知ることができたと思う。この経験は、今後の外国人留学生支援や日本人学生の留学支援、国内でのシンポジウムの開催等、多様な場面で生かすことができるのではないかと考えている。

私自身の英語能力の不足についても痛感したため、今後とも英語能力の研鑽にも励んでいきたい。

《藪崎 明日香》

欧州への渡航が初めてだったので、旅券購入やホテルの予約等は他の方をお願いして手続きをしてもらったが、インターネットやアプリの普及で、購入及び予約手続きが簡易に行えることがわかった。

訪問先のアポイントメントを取る時に、相手先が日本の場合と比べると回答を頂くまでにかかなりの時間が必要となることがわかった（連絡時期が夏季休暇期間だったことが遅延理由）。相手先の状況を確認した上で、時間的余裕を持って依頼すべきだった。

また、3人だけの力で計画を立て、実行できたのではなく、松田先生を始めとする国際交流課スタッフやIA担当者、職員課職員係にお世話になることで、達成することができたと感じた。普段の業務ではなかなかコミュニケーションを取らない部局と関わりができたことはうれしく、また相手の業務を知ることができたことは良かった。これらの新しい知識や得難い経験を持てたということが、この研修前後で一番変化した点である。

語学に関しては、今後も自己研鑽が必要である旨実感した。

謝 辞

今回の研修が実りあるものになりましたのも、企画計画段階から研修中まで多大なるサポートをしてくださった国際連携推進機構の松田先生、関係された国際交流課スタッフの皆様、研修の調整や研修費の支払い等手続きを行ってくださった職員課職員係の皆様、心からの感謝を申し上げます。



Fin